

さらに便利な ITS をめざして

Toward More Convenient Intelligent Transport Systems (ITS)

巻頭言

セカンドステージに入った ITS

ITS Upgraded in the Second Stage

ITS (Intelligent Transport Systems : 高度道路交通システム)ということばは知らなくても、自動車に装備されたカーナビで交通状況をリアルタイムで把握できる VICS (Vehicle Information and Communication System : 道路交通情報通信システム) や、高速道路の料金所をノンストップで通過できる ETC (Electronic Toll Collection system : ノンストップ自動料金収受システム) については、よく知っていると思える方も多いと思います。既に、VICS は 1,500 万台、ETC も 1,200 万台以上の車載器が普及し、身近なものになっております。VICS や ETC は世界に先駆け大規模に実用化された ITS で、ほかにもいろいろな種類のサービスが研究され、開発されています。

ITS の目的は、「人も車も安全、快適でスムーズ、しかもクリーンに移動できる」というテーマに向かって、社会の基盤となるシステムを構築し、社会的な課題の解決を図ろうとするものです。このように、既に私たちの生活に深く入り込み始めた ITS を、より多様な生活の場面で活用できる“さらに便利な ITS”が、セカンドステージのめざすところです。セカンドステージが実現すると、駐車場などの各種ゲートにおけるスマートな料金決済や、事故や前方の障害物に関するタイムリーな走行支援情報の提供、更には走行中のエリアにおける地域ガイドなど、様々なサービスが一つの ITS 車載器で実現されます。

このような“さらに便利な ITS の実用化”には、バックグラウンドとして電子回路、センサ、無線通信、コンピュータ、セキュリティ、ソフトウェア、シミュレーション、及びシステム構築技術など、最新技術のインテグレーションが必要であり、様々な技術の結集により、はじめて柔軟性と利便性に富んだシステム構築ができます。産官学における新たな研究開発やこれまでの実用化へのプロセスで得た経験をベースに、知的連携とシナジー効果により、生活に密着した新たな価値を創造できると考えています。



桑原 雅夫
KUWAHARA Masao